

令和7年度 県立盲学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像 ◆「学びがい」に充ち 「頼りがい」があり 「生きがい」を見い出す 学校						
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況	
(成果) ・全教職員で幼児児童生徒の状態や対応等を共有し、安心・安全な教育環境づくりに努めた。 ・RPDCA サイクルに基づいた授業改善研修を通して、視覚障害教育の専門性向上に向けた教職員の意識が高まった。 ・地域交流等の機会が増え、幼児児童生徒の体験の拡充につながった。 ・各部研修や全体研修の実施により教職員のコンプライアンス意識に向上が見られた。 ・定時退勤日や学校閉庁日の設定に加え、時差出勤制度を活用する等、教職員一人一人の働き方に対する意識改革が進んでいる。 ・電子黒板、タブレット端末活用の機会が増え、児童生徒が新しい学びの方法を身に付けつつある。 (課題) ・問題行動等の未然防止の視点での生徒指導。 ・児童生徒の「学びに向かう力」や「自主性・主体性」を育てるための授業改善。 ・地域の人的・物的資源等を活用した交流及び体験活動の更なる推進。 ・教職員の ICT 機器活用スキルと指導力の向上。		1 「学びがい」の充実	① 「解くから問う学び」への転換を支える授業構想力と実践力の向上 ② 教科指導の専門性向上と下支えとなる自立活動の指導の充実 ③ 情報技術の進化や時勢の変化に応じた情報リテラシーの育成 ④ 学校運営協議会との連携、協働による多様な学びの機会の創出		B	
		2 「頼りがい」の確保	① 健康的で安心・安全な学習および生活環境の整備と確保 ② 視覚障害に係る専門性を生かしたセンター的機能の発揮 ③ 家庭との連携を支えとした寄宿舎生活および食の指導の充実 ④ 視覚障害に係る多様なニーズに応える学校事務の適正化		B	
		3 「生きがい」の推進	① 道徳的实践力や自己指導能力の向上を図る生徒支援の充実 ② 個々の得意さや自信を伸ばし自己実現を図る進路指導の充実 ③ 本人や家族のウェルビーイングを意識したPTA活動の推進 ④ 生涯の趣味を得、仲間を見出せるスポーツ・文化的活動の推進		B	
評価項目	具体的目標	具体的方策		重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	・安心・安全な学習環境と生活環境の整備と確保 <「頼りがい」の確保>	・教育、療育、事務が一丸となって児童生徒のために協働 ・校内、寄宿舎の安心・安全な環境の整備 ・通学指導や通学路の安全確認による登下校時の安全対策強 ・「今より少し良い」を意識した業務の改善		2-①③④	B	○防災マニュアルの見直しや定期的な安全点検を行い、全職員で校内安全・環境整備を行った。 ○舎生の声を集めて、生活環境を改善することができた。 ○駅での登校・下校指導を行い、登下校時の歩行の様子や危険箇所の有無の確認をした。 ●◇傾聴や問いかけによる関わりを意識し、舎生の声を聴ける機会を増やせるよう努める。
教職員の 育成及び 指導・監督	・授業構想力と実践力の向上 ・教科指導における専門性の向上 <「学びがい」の充実>	・「教授型から双方向型へ」、「問答型から探求型へ」を意識した授業実践 ・相互参観、授業協力の活性化 ・教職員が主体的に学ぶ機会の保障と校内外の学びをつなぐ体制整備		1-① 1-②	B	○「問いの探究」を共通スローガンに、各部、校務分掌部、教科会等と協働し、学校全体で授業改善に取り組むことができた。 ●◇研修日程の調整や実施方法の工夫。

<p>対外活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学びの機会の創出 ＜「学びがい」の充実＞ センター的機能の発揮 ＜「頼りがい」の確保＞ 個々の得意さや自信を伸ばす進路指導の実践 趣味や仲間づくりにつながるスポーツ・文化的活動の推進 ＜「生きがい」の推進＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 外部団体の受入れや外部団体主催の行事等への参加 教育相談・巡回相談等で視覚障害の特性への配慮や支援方法等を具体的に助言 関係機関との連携・協働による視覚障害に関わる専門的な相談・支援と情報の提供 自分の強みや興味の理解につながるキャリアパスポートの活用 生徒のニーズや意見の把握とそれらを反映させた活動計画の立案と実践 ボランティアや外部団体と連携・協働した部活動運営 	<p>1-④</p> <p>2-②</p> <p>3-②</p> <p>3-④</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○校内外の交流や活動を通して、生徒自身がどのように行動・実践すればよいか考え、身近な課題を解決する場や地域と繋がる機会を設けることができた。 ○早期教育相談・出向き相談の相談件数が大幅に増加した。 ○本人・保護者の希望を共有しながら就労体験や現場実習が実施できた。 ○本校を会場に実施された社会人チームの練習会に参加したり、積極的に大会に出場したりする生徒の姿が見られた。
<p>コンプライアンス確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の道徳的実践力の向上を意識した日々の教育実践 ＜「生きがい」の推進＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 学校目標達成の基盤である教職員の資質の明示と徹底 不祥事根絶のための校内ルールを遵守した教育実践 	<p>3-①</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「発問」のあり方について、部研究や日々の授業づくりで研鑽する機会を設定した。 ○ケース会をきっかけに他の教師に相談しやすい雰囲気ができ、継続的に児童生徒について情報交換する様子が見られた。 ●生徒の実態に応じた指導法の工夫。 ◇視覚障害に起因する自己理解や他者理解に関する研修の機会やケース会を設ける。
<p>働き方改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> ウェルビーイングを意識した PTA 活動の推進 ＜「生きがい」の推進＞ 	<ul style="list-style-type: none"> メール等を活用した効率的な PTA 活動の運営 保護者が主体的に活動できる運営委員の内容及方法の検討 	<p>3-③</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA 活動のお知らせや PTA 日より、出欠、アンケート等、メール配信システムを活用し効率的に運営できた。 ●コミュニティスクールの活動内容の報告ができなかった。 ◇保護者の主体的な取り組み。
<p>I C T 活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> 情報リテラシーの育成 ＜「学びがい」の充実＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態に応じた ICT 機器の活用指導の実施 生活チェックリストを活用した情報モラル指導の実施 	<p>1-③</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○情報モラル教室や SOS の出し方に関する教育を発達段階に合わせて行うことができた。 ◇教員の研修機会を増やす。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない